



# YATTOKAME FESTIVAL

Travel in Time! Experience Culture!  
Nagoya City Festival!

ご協賛いただきました皆様



一般財団法人 民族衣裳文化普及協会



株式会社大丸松坂屋百貨店 一般財団法人名古屋城振興協会 日本ガイシ株式会社  
株式会社エーアンドビー 鹿島建設株式会社 名古屋空港ビルディング株式会社  
公益社団法人日本観光振興協会中部支部 八百彦本店 丸茂電機株式会社 三精テクノロジーズ株式会社

名古屋観光ブランド協会の皆様

青柳総本店 株式会社安藤七宝店 株式会社大須ういろ きよめ餅総本店 呉竹商事株式会社  
雀おどり総本店 名古屋だるま・千両 株式会社ダイナゴン 株式会社なごやしめん亭 納屋橋饅頭万松庵  
有限会社望工芸 宮さしめん 妙香園 名古屋名物 ういろの元祖 餅文総本店 名古屋名物 みそかつ 矢場とん

やっとかめ文化祭実行委員会

〒460-0011 名古屋市中区大須3-42-30 ALA大須ビル201 NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク内  
Tel 052-262-2580 Fax 052-262-6658

<http://www.yattokame.jp/> [やっとかめ文化祭](#) [検索](#) [t](#) [f](#)

主催：やっとかめ文化祭実行委員会

構成団体：名古屋市（文化振興室、観光推進室、歴史まちづくり推進室）、（公財）名古屋市文化振興事業団  
（公財）名古屋観光コンベンションビューロー、中日新聞社、名古屋観光ブランド協会  
特定非営利活動法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク

後援：名古屋商工会議所、中部経済連合会、中部経済同友会

協力：名古屋三曲連盟、名古屋邦楽協会、名古屋日本舞踊協会、（公社）能楽協会 名古屋支部、

近畿日本鉄道株式会社、名古屋市交通局、中部広域観光推進協議会、栄公園振興株式会社、名古屋芽生会、日本郵便株式会社  
名工建設株式会社、会場を貸して下さった寺社の皆さま

企画：[ディレクター]近藤マリコ、高橋佳介、西川千雅 / [コーディネーター]古川博、加藤幹泰、大野嵩明、小林優太、山田卓哉  
デザイン：森葉月、森田和美、榎本紀久、青木奈美 ウェブデザイン：石垣嘉洋

撮影協力：あいざわいこ、岡村靖子、越野龍彦、児島章次、丹下恵実、逸見菜々子、山口卓人、やっとかめ大使撮影担当の皆さま



やっとかめ  
文化祭

まどころ・旅どころ・なごや



<http://yattokame.jp>

# YATTOKAME FESTIVAL

Travel in Time! Experience Culture!  
Nagoya City Festival!

狂言師・井上松次郎

# REPORT

2016.10.29<sup>SAT</sup> - 11.20<sup>SUN</sup>



UNESCO World Heritage Site since 2008



平成28年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

2016  
開催報告

時をめぐり、文化を旅する、まちの祭典。

耳を澄ませて  
見ておくりやれ。

# やっとかめ文化祭



## 都市の詩をさがして。

Journey Around Songlines of the City

4年目を迎えた「やっとかめ文化祭」。  
これは、23日間にわたって開催された「旅」の記録です。

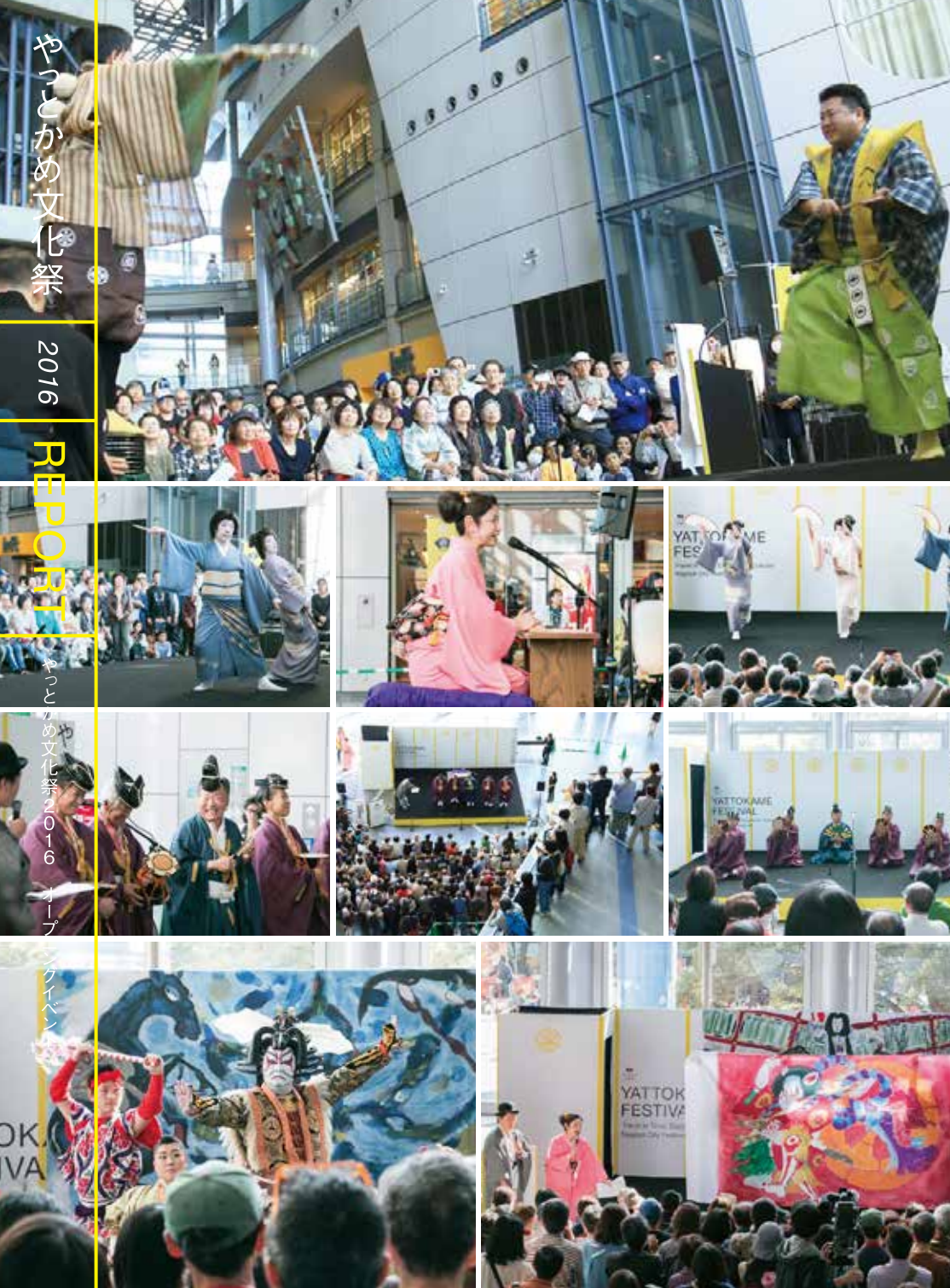
街角で出会う、古の芸能。  
歴史ある寺社の佇まい。  
美しく、魔法のような手仕事。  
折り畳まれた路傍の記憶。

過去と未来がつながり、  
何気ない風景は「旅」の舞台へと生まれ変わります。

それは、世界と出会いなおす「旅」。  
都市の片隅に、風景のあいだに、物語のあと先に、  
いまも、小さな詩が残響しています。



オープニングイベント  
 日時：10/29(土) 13:00～  
 場所：ナディアパーク2階アトリウム  
 司会：旭堂鱗林、市川智也  
 ◎ストリート歌舞伎「悪七兵衛景清」  
 ◎尾張万歳  
 ◎講談  
 ◎名妓連組合  
 ◎辻狂言



開催概要

開催期間 平成28年10月29日(土)～11月20日(日) 23日間  
 総参加者数 60,919人  
 総出演者数 1,202人

CONTENTS

やっとかめ文化祭2016を終えて	1
事業内容	2
<b>芸どころまちなか披露〈17プログラム45回〉</b>	
◎辻狂言	6
◎ストリート歌舞伎「悪七兵衛景清」	10
◎街茶 MACHI-CHA	12
◎志野流香道コラボコンサート	13
◎お座敷ライブ	14
◎カナリアの夜	16
◎なごやうた、尾張万歳、端唄、平針木遣り音頭、箏曲、 津軽三味線、日本舞踊、お座敷芸、落語・講談	18
◎しゃちほこチャレンジプロジェクト	20
◎ナゴヤ面影座	21
<b>芸どころ名古屋舞台〈4事業7公演〉</b>	
◎まちに響く日本の音	25
◎能「草薙」 狂言「昆布売」	26
◎唄って踊って民謡ふるさとの調べ	27
◎時代横町～大須版～	28
<b>まちなか寺子屋〈全26講座+まちなかキャンパス3講座〉</b>	
◎大須ダイバー ◎はじまりの東松照明 ほか	29
<b>まち歩きなごや〈全47コース〉</b>	
◎枳中・南山 ◎東区銭湯と筒井商店街散歩 ほか	34
やっとかめぐり	40
◎旅する判子コレクション	40
◎尾張の和菓子ものがたり	42
やっとかめ大使	44
ごあいさつ	46
メディア掲載	48
制作物	50

## 芸どころまちなか披露

時を奏でる、街角のうた。

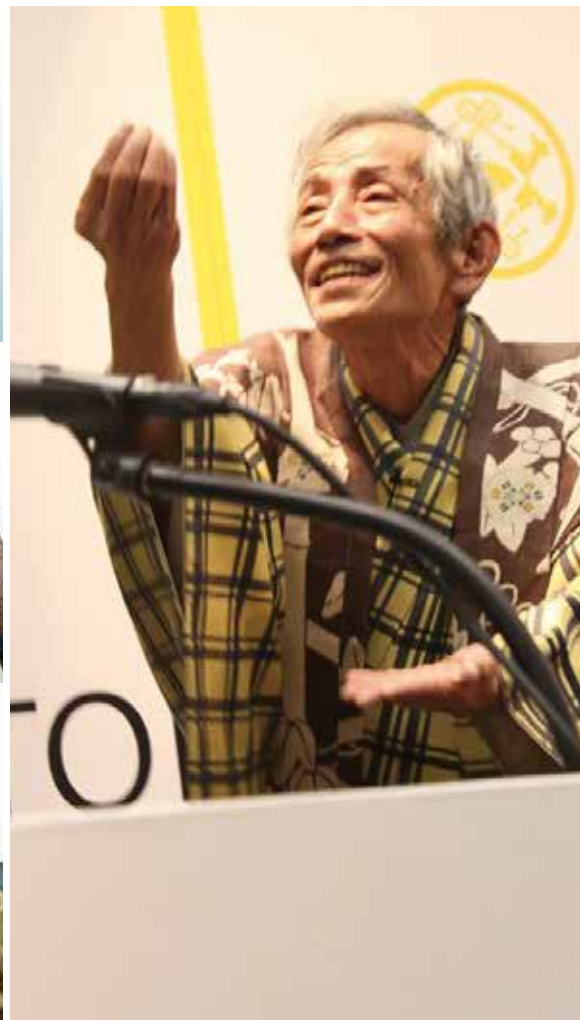
人々が行き交う街角で奏でられた、芸能や音楽たち。  
 今も昔も、まちと人をつなぎ、風景を紡ぎます。  
 現代のストリートから、都市の文化を見つめる  
 名古屋発のプロジェクト。



## 辻狂言～まちのみんなで、大笑い～

名古屋は狂言のまち。和泉流狂言の発祥地です。  
 日本で一番古い喜劇には、  
 今も昔も変わらない人間の姿が描かれ、  
 ほっこり幸せな笑いをお届けしました。





恒例となりました、みんなで狂言体験

芸どころまちなか披露

# ストリート歌舞伎「悪七兵衛景清」

熱田神宮のほど近く、ひっそりと佇む「景清社」。

源平合戦で剛のものとして鳴らし、悪七兵衛の異名をもつ平景清を祀っています。

能、歌舞伎、文楽をはじめとする芸能や文学に、練りかえし描かれてきた景清が現代のストリートに。



芸どころまちなか披露

# 街茶 MACHI-CHA

日常の風景の中で、一服のお茶を。  
あわただしい都心の真ん中で開く、ひとときの、自由な茶会。  
お茶処名古屋から発信する、古くて新しいスタイルの茶会です。



芸どころまちなか披露

# 香りと音で、記憶を「旅」する

～志野流香道コラボコンサート～

テーマは「記憶」。

志野流香道次期家元が、  
ピアノの音色に香りを重ね合わせ、  
初恋、失恋、情熱など人生の幾つかの記憶へといだきました。





まごころまちなか披露

お座敷ライブ

協力：名古屋芽生会

歴史ある佇まいのなか、  
心づくしのお料理とおもてなしに舌鼓。  
時をこえて紡がれてきた伝統芸能や、  
艶やかなお座敷芸に酔いしれました。



お座敷遊び



講演 風麟・鱗林二人会



狂言「歌大名」



深秋十三夜 笛と月

芸どころまちなか披露

カナリアの夜～にっぽんの唄は、どこへ行った～

江戸のお座敷唄から、自由民権運動とともに生まれた演歌、街角で口ずさんだ流行歌や童謡まで。江戸端唄の家元と名古屋のポップス・デュオがお届けした、一夜かぎりの唄づくし。



芸どころまちなか披露



端唄 華房流家元 華房小真



Ett (深、西本さゆり)



カナリアの夜



芸どころまちなか披露

なごやうた、尾張万歳、端唄、平針木遣り音頭  
箏曲、津軽三味線、日本舞踊、お座敷芸、落語・講談



尾張万歳



芸どころまちなか披露

なごやうた 尾張万歳



なごやうた



やっとかめ文化祭



端唄



日本舞踊



箏曲



平針木遣り首頭



津軽三味線



芸術文化まちなか披露  
日本舞踊



落語



講談



お座敷芸

お座敷芸

芸どころまちなか披露

## しゃちほこチャレンジプロジェクト

第2弾となるしゃちほこチャレンジプロジェクト。

天候に恵まれ、晴れて名古屋城の本物の金のしゃちほこをバックに約40名でチャレンジ。

「名古屋甚句の踊り」「金のしゃちほこの踊り」のお稽古を通じて、日本らしい所作やふるまいも学びました。



日本舞踊西川流四世家元 西川千雅



「裏しゃちほこ」で参加した河村市長



お稽古風景

芸どころまちなか披露

## ナゴヤ面影座

第1回 円かなる旅人～円空の来し方、行き方～

内外から知を集結させ、継続的にナゴヤ学を構想するための『座』を建立。

「ナゴヤ面影座」は、失われた名古屋の面影を再生し、共震し、方法を将来へとつないでいくための場所です。



歌人・岡井隆

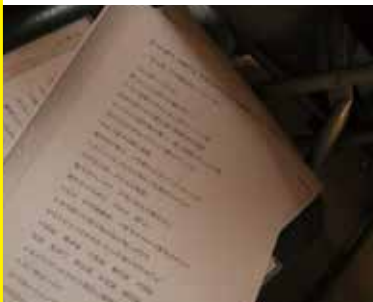


編集工学研究所 所長・松岡正剛



荒子観音寺





## 名古屋を遊ぶ知のサロン、 やっとかめ文化祭に「ナゴヤ面影座」建立。

あなたが誰かを思うとき、心に立ち顕れてくる面影は、その人の何を示しているのだろうか。面影はある時点の記憶ではなく、変化と根源を併せ持つおぼろげなもの。そんな示唆から名古屋の面影に想いをはせる座が、10月30日、やっとかめ文化祭の中で誕生した。その名も「ナゴヤ面影座」。そこには内外から知を集結させ、継続的にナゴヤ学を構想する場にしたいとの狙いがある。ナゴヤ面影座は八句の連歌に見立てた8回シリーズ。今回はその第1回。お題は円空。舞台は、日本最大の像も含め約1200体の円空仏を収蔵する荒子観音寺。文化功労者で名古屋市出身の歌人・岡井隆氏を発句人に、日本研究の第一人者で知の巨人・松岡正剛氏を客人に、二人の円空論が交わされた。

### 旧きナゴヤの面影を慕いて

冒頭、岡井氏の詩がご本人の朗読で披露される。歌われたのは、空襲で焼きつくされた、今は亡き「ウアナゴヤ」。氏のやわらかな声の彼方に、旧きという意味のドイツ語を冠したナゴヤの戦前・戦中の面影が浮かびあがる。近世の気配、芸どころの暮らし、やさしい女性の面差しをした街…。もはや見ることはできないが、確かにここにあったウアナゴヤ。岡井氏の話聞きながら、その淡い輪郭を、座の誰もが思い描いたのではないだろうか。

### 円空の和歌に前衛と古典を見る

生涯に12万体制の仏像を彫ったとされる円空は、和歌も数多く残している。その作風を岡井氏は「素直な歌。まるで言葉という鋭いノミで削りだしたような」と評し、松岡氏は「決して技巧を凝らしたものではないが、前衛と古典が混在する」と。そして、アララギ派に属しながら反旗を翻し、前衛短歌運動を牽引した岡井氏の歌にも、「やはり前衛の鋭さと、根源であるアララギ派の伝統が息づく」と語る。一方、岡井氏はヴァレリーやマラルメなどフランスの詩人の名をあげ、日本の短歌にも西洋が入っている、と自身の歌づくりをひも解いていく。前衛と伝統、日本と西洋。相反するものを共存さ

せる合わせ技。それは日本の文化そのものと言える。

### 変化と根源が同時に描かれた円空仏

円空仏の独創性、あの微笑みは、多くの人が知るところだろう。松岡氏は円空仏を見たとき、彫刻家のジャコモッティを思い出したという。自分の頭の中にある人間を彫り出したジャコモッティのように。いや、それ以上に、円空は頭の中にしかない仏達を、まるで眠っているものを起こすかのように木に彫り出している、と。そこには変化と根源が同時に描かれ、それこそが面影なのだ、と氏は論じる。

神仏は目に見えない。しかし、心の奥底に立ち顕れてくる。円空は見えてはいないが、そこにある本質を小さな木片にまで彫り続けたのだ、という松岡氏の言葉は、円空仏のえも言われぬ魅力を言い当て、失われた名古屋の面影を再生しようとするナゴヤ面影座の試みにも通じるように感じた。

### 面影は、伝播する

変化と根源、表と影。それが面影。私たちは表に見えている変化だけに目を奪われて、あまりに影に無頓着だったのかもしれない。失われた名古屋、この地のそこかしこに眠る面影を、いかに揺り起こすか。円空ならぬ私たちは、やっとかめ文化祭という装置を得て、少しずつだが面影が目覚める瞬間を楽しんでいる。面影は、いつだって美しい。変化と根源の間で揺らぐそれは、存在はなれども人の五感に確かに迫ってくる。だからこそ面影を語る時、人は熱を帯びるのである。そして、面影を聴く者は、見たこともないナゴヤの風景を目に浮かべ、円空のノミの音を耳元に響かせ、懐かしみ、愛おしむのだ。面影は、伝播する。今回、座に参加した聴衆は、やがて自らが面影の語り部となり、この地の歴史文化を伝播する役割を果たすのではないだろうか。

今後も数ヶ月に1度のペースで開催されるというナゴヤ面影座は、やっとかめ文化祭にとって核となる存在。頂が高いほど山の裾野が広がるように、来年5年目を迎えるやっとかめ文化祭は中心を持つことで、その活動の裾野はさらに大きく広がっていくはずだ。

協力：名駅経済新聞 文：神野裕美



Traditional Performing Arts

# 芸どころ名古屋舞台

芸どころ名古屋、ここにあり。

武家の人々に愛された能楽から町人をトリコにした大衆芸能まで。  
懐の深い、芸どころ名古屋の魅力を  
たっぷり詰め込んだ珠玉の舞台公演。



芸どころ名古屋舞台

まちに響く日本の音



芸どころ名古屋舞台

能「草薙」 狂言「昆布売」



芸どころ名古屋舞台

唄って踊って民謡ふるさとの調べ



芸どころ名古屋舞台

# 時代横町～大須版～



Study In The City

# まちなか寺子屋

## まちと楽しむ、「なごや学」。

歴史ある寺社や町並み、受け継がれる芸能や手仕事。

長い時間をかけて育まれてきた宝物が、  
まちの至るところに息づいています。

まちを教科書に、ゆかりのある場所を学校に、  
このまちの物語に出会う、「ナゴヤ学」の開講です。

市民でつくる寺子屋も昨年に引き続き  
7組がコーディネーターに挑戦しました。



名古屋と愛知の利き酒遊び





志野流香道 特別講座 聞香体験



うたいごころ 謡講～謡を堪能する江戸町衆のサロン～



古代名古屋 海のネットワーク



御嶽山信仰と尾張の人びと～その歴史と信仰～



名古屋扇子の手作り体験



初めての雅楽～名古屋市立大学連携・特別講座～



大須ダイバー～名古屋のへそ、大須のモノがたり～



伝統と創造 紋の可能性 ～有松で輝く若手職人たち～



茶どころ名古屋の茶の湯体験



名古屋の和菓子文化～和菓子づくり体験～



悲喜こもこも 名古屋の動物園物語



はじまりの東松照明



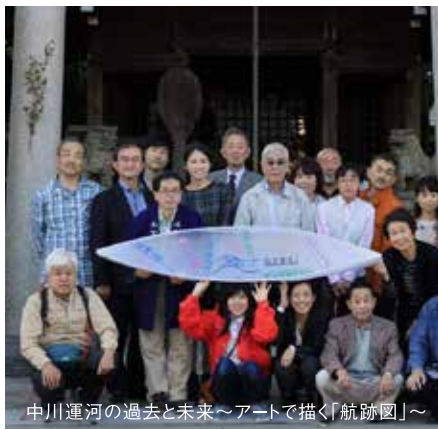
狂言いまむかし～中世から届く声～



文さんのナゴヤミクス～家康・宗春の経済と文化～



ブルースで読む金子光晴



中川運河の過去と未来～アートで描く「航跡図」～



はじめましての古墳さんぽ



士魂商才!「名古屋商人」  
～激動の時代を生き抜いた知恵と心意気～



飛べ! 戸部蛙  
～郷土玩具「戸部蛙」復刻プロジェクト～



名古屋ゆかりの絵師  
田中駒言と宇喜多(浮田)一蕙



昭和の思い出写真館  
～古い写真を手がかりにして、まちの声に耳を傾ける～



Walking Tour Nagoya

# まち歩きなごや

## なごや好きと歩く、ミニツアー。

なごや好きガイドさんと歩く、愛があふれる47コース。  
知っているようで知らないなごやの歴史、文化、知られざるお宝の発見に心躍り、  
珍スポットや名人と歩く遊び心あふれる新コースも登場。



名古屋城の魅力を再発見



堀川・納屋橋  
円頓寺界限



東海道 有松



菓子問屋街  
新道・明道町



桜山・御劔・雁道界限



じっくり巡る「熱田神宮だけ」コース～熱田神宮にまつわる楊貴妃の謎～



お屋敷まち 白壁



狂言方・野村又三郎とまいるぞ、  
目指せマウンテン登頂



中村・大門





南寺町 西の大須



名古屋スリパチ学会 名古屋山崎公園



モザイク壁画



御用水 黒川



はじめての渋ビル散歩



東区銭湯と筒井商店街散歩



YATTOKAMEGURI

# やっとかめぐり



やっとかめぐり

## 旅する判子コレクション

プログラムにご参加いただくたびに、文化祭にまつわる判子をポン。  
 面影も、小さな詩も、大地の記憶も、判子でたくさん集めました。  
 旅路の足跡、学びのしるし。  
 たくさん集めた方には、文化祭オリジナルの記念品もご用意しました。  
 企画協力・判子作成：天神堂 小島印房



やっとかめぐり

尾張の和菓子ものがたり

～尾張に息づく和菓子の『ものがたり』を巡る旅～

江戸時代から続く老舗をはじめ、まちの人々に愛される小さな名店まで、名古屋の和菓子をめぐり旅。

料理評論家・山本益博さんが、昔の味を復刻・再現した和菓子、またはずっと作り続けて変わらぬ和菓子について、そこに秘められたストーリーを紹介しました。

企画発案：料理評論家・落語評論家 山本益博さん



御菓子司 川村屋



雀おどり總本店



万年堂

期間：10/29(土)～11/20(日)  
参加店舗（全22店）



御菓子司 桔梗園



大黒屋本店



御菓子司 美濃忠



青柳総本家 大須本店



御菓子司 菊屋



つくは祿屋



むらさきや



いちだ 一朶



御菓子司 菊屋茂富



納屋橋饅頭万松庵大須万松寺通店



もち観



尾張名古屋 亀屋芳広本店



尾張菓子 きた川



御菓子司 不老園正光



餅文總本店 餅屋文蔵の店



川口屋



きよめ餅総本家



覚王山 不老園



両口屋是清 栄店

YATTOKAMETAISHI



# やっとかめ大使

やっとかめ文化祭に欠かせない存在となってきた「やっとかめ大使」。  
 今回も総勢85名の大使の皆さんが、文化祭を大いに活気づけ、大活躍してくれました。  
 ”名古屋のまちが好き” ”もっとオモシロくしたい”そんな名古屋愛に溢れた大使が、  
 「やっとかめ文化祭」を誰よりも楽しみ、盛り上げ、まちへの愛を深めました。





## ごあいさつ

知的好奇心を刺激された人々は  
新たなものがたりを探す旅へ。

Culture(文化)は、ラテン語のcolere(耕す)に由来し、大地を耕すという意味から心を耕す=文化を意味するようになったそうです。土を耕して種を蒔き、芽が出て花が咲く。文化の成長過程を、やっとかめ文化祭で体現していると感じるのは私だけではないはずです。4年目を迎え、耕した土地に芽吹いた樹木が、栄養をつけて幹を太くするように。基盤はより強固に、変化球の効いた応用編が加わって、バラエティ豊かなメニューに仕上がりました。「まち歩きなごや」では、スペシャルガイドが登場し、普段着のまちの知られざる魅力を。「まちなか寺子屋」では、古代から現代まで伝統文化に関する学びを。いずれも固定ファン層と新たな参加者が、「我がこと」としてものがたりを綴り、文化の時空を旅してくださいました。



まちなか寺子屋・まち歩きなごや 担当ディレクター  
近藤 マリコ

やっとかめ文化祭は  
名古屋の魅力向上の道しるべ。

「やっとかめ大使」という仕組みも3年がたち、回を重ねるごとに、やっとかめ文化祭の要となりつつあると実感しています。この文化祭に参加してくれる方々をおもてなししながらも、一緒になってまちに学び、新たな発見と出会い、楽しみながら、名古屋のまちを発信しています。

やっとかめ文化祭の思想が日常化することで、やっとかめ大使の活動や思いが日々の生活に浸透していく。そうしたことが、名古屋の文化力の底上げになり、都市イメージの向上やこのまちで暮らすことへの誇りにつながるのではないのでしょうか。

そんな「道しるべ」となる予感がしたやっとかめ文化祭2016でした。



広報・ボランティア運営 担当ディレクター  
高橋 佳介

「やっとかめ」感覚が、  
広まっています。

「自分の足元に宝が潜んでいる」そんな感覚が、すこしずつこの街に根付いてきています。“自分の街が好き”という発言が、次第に恥ずかしくなくなってきています。

自分が幸せじゃないと、人を幸せにできないという言葉がありますが、自分を形成したのが「わが街」であるならば、わが街を愛せることは幸せです。

これまでで、ようやく自分を見つめることが出来た「やっとかめ」。いよいよ、今度はそこからの発信が問われていきます。ここからどんな未来が生まれるのか…ますます「わが街」から目が離せません。



芸どころまちなか披露 担当ディレクター  
西川 千雅

文化祭の開催にあたり、ご支援ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。  
本当にありがとうございました。

やっとかめ文化祭実行委員会一同



中日新聞朝刊 特集記事 2016年10月22日



中日新聞朝刊 ジュニア中日 2016年11月20日



中日新聞朝刊 通風筒 2016年11月13日



中日新聞夕刊 グラフ 2016年11月11日



中日新聞連載 2016年11月7・8日

媒体	件数	内容
新聞	中日新聞	特集記事(1)、夕刊グラフ(1)、連載(2)、社告(1)、広告(4)、記事(12)
	その他	朝日新聞 記事(2)、広告(2)
テレビ	6件	NHK「ほっとイブニング」ほか
ラジオ	9件	NHK「マイあさラジオ(全国)」、NHK「ごじらジ」ほか
雑誌・情報誌	16件	一個人、HANAKO FOR MEN、すばる ほか
WEB	129件	Yahooニュース(全国)、All about、コカカル、TABICA、プレミアムジャパン LIVERARY、IDENTITY NAGOYA、オニマガ、名駅経済新聞 ほか
その他	11件	秋の観光キャンペーン ほか
計	196件	

フェイスブック いいね! 4,985人(11月30日現在)

ツイッター フォロワー 2,260人(11月30日現在)

制作物



ポスター



チラシ



尾張の和菓子ものがたり



旅する判子コレクション台紙



クリアファイル



缶バッジ



公式プログラム



媒体	配布数	仕様
公式プログラム	100,000部	A4判カラー 20頁
ポスター	1,200部	B1判～B3判
チラシ	114,000枚	
	お座敷ライブ	10,000枚 A4判両面カラー
	芸どころ名古屋舞台(4種)	各20,000枚 A4判両面カラー
	尾張の和菓子ものがたり	11,000枚 A3判両面2折カラー
	旅する判子コレクション台紙	13,000枚 A3判両面16折カラー
芸どころ名古屋舞台	プログラム	
	まちに響く日本の音	700部 A3判両面2折カラー
	能「草薙」 狂言「昆布売」	700部 A4判両面カラー
	唄って踊って民謡ふるさとの調べ	400部 A3判両面2折カラー
	時代横町～大須版～	400部 A3判両面2折カラー
その他制作物	クリアファイル	3,500枚
	缶バッジ	6種合計500個

そして、旅はつづく。



やっとかめ  
文化祭

芸どころ・旅どころ・なごや